

安寧



兵庫縣姫路護國神社社報
 「安寧」第二十九号
 発行所 兵庫縣姫路護國神社
 〒670-0033 姫路市本町二一八
 電話〇七九一三四一〇八九六
 安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なとこ

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

英靈の言乃葉

遺言

海軍中将 大西 瀧治郎 命

海軍軍令部次長
 昭和二十年八月十六日
 官邸にて自決
 海軍兵学校第四十期
 兵庫県氷上郡芦田村出身 五十五歳

特攻隊の英靈に曰す。善く戦ひたり、深謝す。

最後の勝利を信じつ、肉弾として散華せり。

然れどもその信念は遂に達成し得ざるに到れり。

吾れ死を以て旧部下の英靈とその遺族に謝さんとす。

次に一般青壮年に告ぐ。

吾が死にして、軽拳は利敵行為なるを思ひ、

聖旨に添ひ奉り、自重忍苦する誠めとならば幸い

なり、隠忍するとも日本人たるの矜持を失ふ勿れ。

諸子は國の宝なり。平時に処し猶克く特攻精神

を堅持し、日本民族の福祉と世界人類の和平の為

最善を尽くされよ。

(昭和四十七年八月靖國神社社頭掲示)



秋季例大祭 十一月二日

秋晴れの中、定刻十時三十分の号鼓とともに宮司以下奉仕する神職、三木英一大祭委員長・三宅崇敬奉賛会会長・北浦兵庫県遺族会会長・釜谷崇敬奉賛会副会長・三木通嗣兵庫県神社庁副庁長が参進し、祭典が始まった。修祓の後、海川山野の神饌を捧げ、茶道裏千家淡交会播磨支部及び播磨支部青年部による



参進風景



陸上自衛隊小松姫路駐屯地司令、玉串奉奠

献茶、宮司祝詞奏上と続いた。玉串奉奠は宮司以下祭員が併せて行った後、三木大祭委員長、三宅崇敬奉賛会会長と

続き、遺族代表、陸上自衛隊小松姫路駐屯地司令、来賓代表に併せて参列者が参拝した。姫路市民合唱団による合唱奉納は新型コロナウイルス感染防止の為、中止された。

宮司は挨拶で式次第に掲載された河村直哉氏の一文に触れられた。万葉の時代から近代にいたるまで日本人の肉親への想いは変わらず、また大切なのは日本文化の中で、「死者はどのように祀られ、生者は死者をいかに遇してきたか」ということを取り上げ、世の風景を見ているのは生者、死者両方が見ており、それぞれの魂の交流があつて初めて日本の国土、文化、伝統が成立していると続くが、護國神社がまさに魂の行きかいの場だと説いた。また、英霊の生前を直接知る、あるいは生

前を知る方からの話を聞いた方々は時間とともに少なくなるが、国家・家族を守ろうとした御心を私たちは受け継ぐことができ、私たち子孫の務めは明治以来の戦役、事変、戦争という国家の受難の時代に生まれ、殉じられた方々を讃えることであると述べた。そして国難に立ち向かわれた英霊の大御稜威をいただき令和の御代が平和で国家安泰であることとともに祈りたいと結んだ。

境内には賢明女子学院書道部と兵庫県立太子高等学校書道部から国際平和デーである九月二十一日に世界平和を祈り奉納をしていただいた揮毫が展示された。

尚、祭典受付は毎年姫路郷友会（会長村田定克氏）の方々が奉仕している。



賢明女子学院書道部 揮毫



兵庫県立太子高等学校書道部 揮毫

新年万燈祭

元旦〜十日



参拝者で賑わう境内

昨年引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策下でのお正月を迎えた。天候に恵まれ、参拝者は昨年にならぶ多かつた。コロナ対策として各所にアルコール消毒液が設置され、手指消毒を促すとともに手水舎は流水での対応、鈴の緒は使用禁止となっていた。また三密を避けるため、賽銭箱は横長に広く設置され、おみくじは引く場所と渡す場所が分けられる等工夫がなされていた。

崇敬奉賛会 新年祈願祭

一月九日(成人の日)



参加者の方々

崇敬奉賛会新年祈願祭は毎年成人の日に行われる。本年は穏やかな気候の中での祭典となった。祭典は午前十一時に斎行され、三宅知行会長以下五十七名の参加者は国家の安泰、護國神社の隆昌と崇敬奉賛会の発展、会員の健勝を祈った。尚、直会は新型コロナウイルス感染症防止の為、昨年に引き続き中止された。

建国祭

二月十一日(建国記念の日)



三木英一氏による講話

皇紀二六八三年令和五年二月十一日は、建国祭にあたり、「建国を祝う会姫路実行委員会」で主催された。九時三十分より、参集殿にて実行委員長三木英一氏による「神武天皇の御東征と御即位について」の講話があつた。座席を五十名分用意していたが、それをほるかに上回る九十名に近い聴衆者が集まった。わかりやすい講話であり、国の成り立ちについて改めて学んだ。十一時より、本殿にて泉宮司を先導に神職らによる奉祝神事が祭行された。

た。引き続き、十一時三十分からは、境内にて実行委員会による式典行事へと移り、榎原宮への遙拝に始まり、「紀元節」の歌を小学校五年生女兒の先唱にて、参加者全員で奉唱しお祝いをした。式典参加者は、各界のご代表者をはじめ、陸上自衛隊姫路駐屯地司令や一般参加を含めて、百二十名を超える大変賑やかな式典として盛会となった。国の安寧と幸せを願う参加者は、「建国をしのび、国を愛する心」が養われた。

(文責 崇敬奉賛会理事 尼子尚公)



聖寿万歳 (建国祭)

天長祭
二月二十三日(天皇誕生日)

当日は少し肌寒い日だったが、四十七名の参列のもと祭典は厳粛に斎行された。天長祭は恒例祭典として神職のみで斎行していたが、



祝賀式典の映像を鑑賞



直会でご挨拶をされる三木総代会長

令和の御代になり天皇誕生日を皆でお祝いしよう、神社総代・崇敬奉賛会会員にご案内をお送りした。しかしコロナ禍により二年続けて神職のみの斎行となっていた。

有志二十八名にて行われた直会では、令和元年十一月九日に行われた「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」の祝賀式典の映像を鑑賞した。久しぶりの直会に参加者は親しくお話をされていた。最後にはご皇室の弥栄を祈り聖寿万歳を行った。



拝礼をする参拝者

和プロジェクト実施

「高校生の平和揮毫奉納」

令和四年九月二十一日

名古屋市在住の宮本辰彦氏提唱による和プロジェクト（国連平和デーに護國神社に平和揮毫を奉納する活動）に賛同し第六回目の平和揮毫を実施した。

今回は、三年目になる賢明女子学院に加え、新たに兵庫県立太子高等学校書道部も参加し、二校が競って願いを込めて揮毫した。



九月二十一日（国連平和デー）当日、本殿で修祓、参拝の後、両校のメンバーともお揃いのいで立ちで音楽に合わせてご神前で大きな書道紙に文字をしたため奉納した。

賢明女子学院は「平安」の二文字の周りに「繋ぐ絆 紡ぐ未来」「世界平和祈願」「輝く 私たちの明日」とちりばめた。

一方太子高校は自校のJコーラス部の歌声に併せて「安穩無事」と揮毫した。揮毫した学生たちは、「平和について深く考えることができた」「コロナ禍の高校生活の中で思い出となる貴重な機会をいただいた」など取材に来た新聞記者に語っていた。



賢明女子学院による揮毫



兵庫県立太子高等学校による揮毫

若い戦没者が多く祀られる護國神社で高校生たちが、感謝と平和のメッセージを書かれたことにご祭神もお喜びのことである。

「兵庫縣姫路護國神社の歴史について」講演会開催

令和四年十一月五日

十一月五日（土）イーグレひめじ三階、あいめつせホールに於いて護國神社研究家でありフリーライターの山中浩一氏の講演会が開催された。山中氏は大学生の頃から戦没者の慰霊、英霊の顕彰を目的として靖國神社や全国の護國神社を参拝。「全国護國神社巡礼ガイドブック」や「まんが護國神社へ行こう」など、著書も多数手がける。

本講演会は、護國神社の事をもっと詳しく知ってもらおうと山中氏が企画され、崇敬奉賛会主催で開催をした講演会である。講演会には奉賛会員以外にも多数の方がお越しになり六十四名のご参加を頂いた。

講演会では、護國神社のご祭神など基礎的な部分から、全国の護國神社で違う神社が建立されるまでの歴史的背景など、興味深い話に聴講者は熱心に耳を傾けた。お話では軍人さんが大勢参列できるように建てられた護國神社の形状にも触れられ、二度の空襲から戦禍を逃れ建立時のまま現在まで残る姫路護國神社の歴史的な価値を改めて学ぶこととなった。尚、山中浩一氏の著書である「全国護國神社巡礼ガイドブック」や「まんが護國神社へ行こう」は当社でも販売をしている。

シリーズ 英霊の戦場 (下)

郷土の偉人

大西瀧治郎海軍中將の苦闘(一)

敗色濃厚となった戦局を打開するため特攻作戦を
 決行し、終戦時は軍令部次長であった丹波市出身
 大西海軍中將を二回に分けて紹介します。

大西中將は護國の任に殉じられた特攻隊員へ「後
 に続く」と約束を果たすため終戦日翌朝自決されま
 した。中將と関係の深かった方々からの証言を集め
 た著書と公式記録である防衛省戦史叢書で補完しつ
 つ偉人の実像に迫ります。

■生立ち

明治二十四年六月二日 水上郡芦田村西芦田
 (現丹波市青垣町西芦田)にて 父：亀吉 母：ウタ
 の次男として誕生、戦前まで健康な男児は文武両道
 で育てられるのが当然で瀧治郎少年も両道を懸命に
 学んだ。性格は心優しい面と強情で負けず嫌いの両
 面を備えていた。母は善悪を厳しく躾、特に間違っ
 た言動は必ず本人が理解するまで諄々と説いて「根
 性を治す」との説教は身に染みたと後年「自分の善
 悪根性は母の訓えだった」と妻に語っている。

明治三十年芦田小学校入学、学力も常に上位で
 あった。明治三十八年柏原中学入学、学校は十二
 キロ離れているので学校の寄宿舎生活。中学では体
 格も優れ学問もトップクラスの成績を維持。この中
 学校時代は明治三十七年勃発した日露戦争中、入
 学年の五月に日本海海戦でバルチック艦隊全滅の報
 道が当時の少年達に軍人への憧れをもたらした。特

に二年先輩の富田貴一氏(のち海軍大佐)が旅順港
 閉塞隊長広瀬武夫中佐を崇拜して瀧治郎少年に感
 化を与えたことで海軍軍人の道を目指すことに。
 明治四十二年海軍兵学校を受験、難関を見事合格。
 成績は合格者百五十名中の二十番であった。

■軍人への道(大東亜戦争開始まで)

明治四十二年九月海軍兵学校に入校、軍人生活
 が性に合ったのか海軍五省(注)を真直に守り生徒
 時代に質実剛健な人格を築きあげた。負けず嫌いの
 エピソードが語り継がれている。同校名物「棒倒し」
 は闘争心を養う競技で生徒を紅白二分して、相手陣
 営の棒を先に倒した方が勝ち。棒に取り付いた生徒
 を離すには、殴る・蹴る・踏む・服を破る等喧嘩同
 様であったが大西と山口多聞(のち中將・ミッドウェー
 海戦で戦死)の奮闘振りは同期の双璧と言われた。
 明治四十五年七月卒業、海軍少尉候補生に任官。

(注)海軍五省：海軍将校の訓育、

- 一、至誠に悖る勿かりしか(もとる：そむく)
- 一、言行に恥ずる勿かりしか
- 一、氣力に缺くる勿かりしか
- 一、努力に憾み勿かりしか(うらみ：不満)
- 一、不精に亘る勿かりしか

現在は海上自衛隊幹部学校に引き継がれ、米海軍
 兵学校では将校の修養として採用されている。

大正二年 尊敬していた母ウタ病没

大正三年八月 第一次世界大戦 対独開戦で戦役
 を体験

大正四年四月 横須賀海軍航空隊付 飛行機の
 兵器としての魅力に取りつかれて将来の海戦を研究。
 毎日水上機の操縦訓練。僅か二カ月の訓練で卒業
 試験飛行に合格。その後、氣球に乗り操縦を習得、
 また機上から日本で初めて落下傘降下を体験する等
 新進氣鋭の勇敢な将校であった。

■奇跡の生還を三度体験から死生観を確立

大正六年水上機母艦「若宮」に乗船中、当時の
 飛行機は馬力も低く機体も頑丈で無く其の上故障の
 多い代物であったが、大西中尉は悪天候であろうが
 洋上広範囲の搜索であろうが出撃して、三度の事故
 に遭遇しても奇跡的に生還している。初回は夜間訓
 練中、着水飛行に移った時、水面標識灯に幻惑して
 機体諸共海面に激突、操縦者は強打失神水死が普
 通だが機体は大破したものの中尉は運良く海面に放
 り出されて助かる。

二回目は十一月駿河湾で同僚の操縦する水上機に
 同乗して機上から三保の松原灯台の見える照明角度
 調査を命じられ飛行中発動機故障で清水湾に不時着
 水した後波浪のうねりで転覆、冷海水の中を沖に流
 され始め体温低下と闘い乍ら耐えていたら風向が変
 化し、翼が帆の役割をして灯台方向海岸に流され泳
 いで助かる。

三回目は九州西方での海軍演習中の偵察飛行時、
 全艦隊から離れた空域を飛行中発動機故障で海面に
 不時着した。荒波で機体は大破、外れたフロートに
 しがみ付いて漂流していたところ二隻の軍艦が水平
 線上に現れ、艦隊司令官の鈴木中將が自らの双眼鏡
 で日没の水平線上に小異物を発見して進路変更を命
 じて奇跡的に発見された。救助に当たった将兵や同
 僚から死生観を問われて「この世に必要なある人間
 を神は殺さない。必要が無ければ死ぬしかない」と
 恬淡として応えた。体格とギョロ目から「今西郷
 (隆盛)」とも呼称された。後に特攻作戦時から「決
 死不如不思議死生」(決死は死生を思わざるに如かず)
 を死生観とした。

■英国練習航空隊で操縦術を称賛される

大正七年十一月高等飛行術修得で英・仏に出張。
 英国に着くと「硬式飛行船操縦を修得せよ」と特命

が届く。然しこの操縦は厳しい審査と訓練にも拘わらず修得した。その審査は、強風下であったが、飛行船の全諸元を暗記し風向に応じた操縦方法を考案して、逆に戸惑う教官より巧みに操縦して予定地に着陸し、称賛を受けた。又、日本に引き渡される飛行船のテスト飛行も荒天であったが大西大尉の巧みな操縦で無事終了した。「大胆で且つあらゆる事態を想定する緻密な研究心で任務を遂行する男」のイメージが英軍航空隊で定着した。その後英軍練習航空隊で訓練を重ね十月帰朝。

大正十一年横須賀海軍航空船隊長 降下傘訓練披露では強風下で、教官の英国少佐が遅延遂巡して降下しないので大西大尉が先に降下すると次々と続き、地上から拍手喝采に英国指揮官が大西大尉の勇氣に謝辞を述べた。

■海軍大学受験で「素行不良」?

大正十三年、将来の将軍を養成する海軍大学校の受験では学課合格者から口頭試問(将軍としての資質が問われる)では一日目終了後、料亭で飲酒中接待の芸者の態度が気に障ったのか殴ってしまった、憲兵隊に訴えられ、然も新聞沙汰となり「素行不良」として試問取り消しとなる。自省したが気持ちを切り替えて職務に邁進する姿勢は後に再評価された。

■結婚しても芸者遊び?

昭和三年二月二十一日松見嘉子(後に淑恵と改名)と結婚。松見家は教育者の家系、大西少佐晩婚の理由として飛行家は殉職が多く独身を通す者が多かった。然し本人は独身主義的考えを保持していたと考えられている。従って見合いの席で相手から嫌われても良い様に芸者を呼んだりしてふざけた振る舞いをしたが、嘉子の母が「男はこの位の大きな持った方が良い」と婚約が成立した。

然し結婚生活は妻を大切に扱うも酒豪癖に芸者遊び等難儀だが尊敬する夫でもあった。偉人にしては芸者遊びに違和感を覚えるが、後に夫人は芸者遊びに同席して「貧しい娘の多くは家計を助ける為、芸者で稼いでいる。海軍将兵の息抜きにも芸者は大切、接遇や話相手に困らない知恵を教えている」と。又、仕事に困っている元兵士の救済に尽力する等、弱者を労わる夫であった」と証言されている。尚、大西中将自決後、夫人が執った特攻隊員遺族等に対する真摯な態度は尊敬され、夫と特攻隊員の名誉回復に大きく貢献された。



大西夫妻。夫人は、芸者遊びなどを通じ、家庭生活の大切なものを学んだ。

■剛毅果断の印象を与えた発艦命令

昭和八年 空母「加賀」の副長勤務時、演習参加で発艦すべき時刻に悪天候の上、霖雨で視界が悪く搭乗員達は不安がり、司令幕僚は発艦命令に自信がない中、相談を受けた大西大佐は搭乗員を集めて「皆発艦して、死んで来い」と強い口調で命令。結果は事故も無く、加賀飛行隊は高い評価を受けた。

■「航空至上、戦艦無用論」を発表

昭和十年大西大佐はこの発表で「大艦巨砲主義」と対立。海軍大演習審判官の一人であったが連日、軍令部第二部(戦備)に入室、戦艦(大和)建造は時代遅れと強談判。この頃山本五十六大將も航空優位論で巨大戦艦建造派を揶揄して批判。又、各飛行隊長連も海戦は制空権無しでは成立しないと激論した。後にこの考え方が空爆で真珠湾を叩く作戦に繋がっていくことになり、この戦果(被害)を米軍側が教訓として航空機や空母の増産が重要と認識した。

■「指揮官は率先垂範」身代り隊長の戦死を悔やむ

昭和十二年勃発した日中戦争は昭和十四年中国軍根拠地重慶方面攻略中、陸軍は敵の空爆で苦戦、支援要請を受けた海軍航空隊は陸上攻撃機の大編隊で散在する敵航空基地を叩くのが急務であった。

この年十一月大西少将は中支(現：南京付近)の第二連合航空隊司令官に任命された。着任すると三日後に成都(重慶より更に三百キロ北西)を昼間強襲する旨発令、自ら指揮官機に搭乗すると決意した。この空爆は護衛戦闘機が随伴しないので空爆の度に未帰還機が多発、指揮官が戦死すれば飛行隊は勿論陸軍の士気に影響するので飛行隊長の奥田大佐が猛烈に反対して自ら遺書を残して搭乗し、出撃した。案の定指揮官機が撃墜され奥田大佐は戦死された。

大佐の葬儀でお詫びと自省、その後空爆は強行すべきとの要請には敵の意表をつき慎重な作戦に変更され、翌年、護衛可能な十二艦戦(零戦)が配備されて問題は解決された。

参考文献

海軍中将 大西瀧治郎 秋永芳郎

空と海の涯で 門司親徳(元副官)

防衛省戦史叢書 海軍掛号作戦

(文責 崇敬奉賛会理事 曾田孝一郎)

崇敬奉賛会会員募集

日本のために戦ってくれた

英霊を大事にしたいと思う人

先祖を敬う心を持っている人

見えないものを受け継いで

いきたいと思う人

奉賛会に入会して神社を

支えて下さい

我々と共に英霊に感謝し

そして汗をかき、

涙を流しましょう

奉賛会事務局

〒670-0012

兵庫県姫路市本町118

電話 079-224-0896

<http://www.himeji-gokoku.jp/housankai/>

新年万灯祭

献灯のお願い

毎年一月一日から一月十日の間

新年万灯祭を行っています

ご神前に献灯し

神の庭を明るく照らし

心和やかに、心安らかに

新しい年が迎えられますよう

神前献灯に是非お申し込み下さい

献灯初穂料 一灯一万円



当社では祭典や各種行事、限定御朱印など神社に関する最新情報を
インスタグラム・フェイスブック・ツイッターを使用し発信しております。

下記QRコードよりどうぞアクセスしてください。

